

加齢性難聴者の補聴器購入助成制度創設等を求める陳情書

2025 年 11 月 27 日

半田市議会議員 石川 英之様

〔陳情趣旨〕

高齢者の多くが加齢性の難聴と言われています。難聴になると家庭の中でも社会的にも孤立しやすく、会話や人と会う機会が減ってしまう場合が少なくありません。加齢性難聴は日常生活を不便にし、コミュニケーションを困難にするなど生活の質を落とす大きな原因になるばかりか、うつ状態や認知症の要因となる危険性も専門家から指摘されています。

聞こえの悪さを補完し、音や言葉を聞き取れるようにしてくれるのが補聴器です。補聴器は加齢性難聴者の生活を支える有効な手段と言えますが、高額なうえ保険適用がないため全額自費負担で、所有率は欧米諸国と比べてきわめて低い状況にあります。

一方で購入助成を実施する自治体が急速に増え、愛知県内でも 2025 年度は過半数の市町村で助成が行われています。

知多半島の市町でも 8 市町が助成を実施しています。残念ながら、半田市は実施の考えがありません。

半田支部では 5 月 20 日に 4 項目要望の署名 828 筆を久世市長に要望しました。今回、半田市議会へ要請陳情いたします。

私たちは高齢になっても心身ともに健やかに過ごすことができるよう、補聴器購入に対する助成制度の創設など下記の事項について陳情します。

〔陳情事項〕

- 1, 加齢性難聴者の補聴器購入費に半田市独自の公的補助事業を実施して下さい。
- 2, 聴力検査を特定健診項目を半田市独自に取り入れて下さい。
- 3, 補聴器装着後の調整費用を半田市独自に助成して下さい。
- 4, 補聴器購入費を保険適用とするように国に要請して下さい。

<取り扱い団体>



(意見書案)

加齢性難聴者の補聴器購入助成制度創設を求める意見書（案）

高齢者の多くが加齢性の難聴と言われています。難聴になると家庭の中でも社会的にも孤立しやすく、会話や人と会う機会が減ってしまう場合が少なくありません。加齢性難聴は日常生活を不便にし、コミュニケーションを困難にするなど生活の質を落とす大きな原因になるばかりか、うつ状態や認知症の要因となる危険性も専門家から指摘されています。

私たちは国に対して以下の理由で補聴器購入費の保険適用を求めます。

- ① 購入費用の医療費控除はできますが、高齢者の多くは所得税の負担がゼロ、もしくは少額のため負担の軽減になりません。
- ② 障がい者支援制度では中レベルの加齢性難聴者は対象外です。
- ③ 現在実施している自治体独自の助成制度はでは不十分です。

半田市議会は、下記の事項を実現するように国へ要請します。

記

加齢性難聴者の補聴器購入費の保険適用を実施して下さい。

2025 年 〇 月 〇 日

内閣総理大臣 宛
厚生労働大臣

半田市議会
石川英之議長